

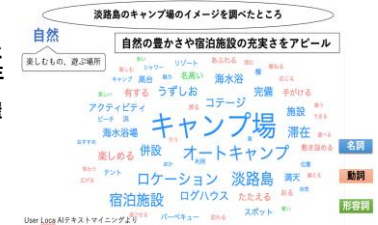
～ 洲本市×流通科学大学 域学連携プロジェクト ～

活動の様子



取り組む課題

近年、持続可能な環境づくりやSDGsが世界的に関心が高いことに着目し、鮎屋のキャンプ場では自然で遊んでいく中で、自然は守っていく、共存していくものであるということを学んだり気づけたりすることができるキャンプ場をコンセプトとして鮎屋地区キャンプ場の周辺に生息している動植物のパンフレットの作成やキャンプ場で撮った写真を鮎屋地区キャンプ場のホームページやSNSに投稿することによる鮎屋地区キャンプ場と周辺環境のPR、さらに写真コンテストなどのイベント等を提案する。



本学(学生)の役割

(1)「実体験の大切さから提案する鮎屋地区キャンプ場計画」をテーマとしたキャンプ場の差別化案、(2)地元の特産品でキャンプ用のミールキットを考え販売、洲本市内にある人が集まりやすいお店のshare baseなどでSDGsや環境問題をテーマとした展示実施など地域との連携案、(3)キャンプ客が料理をする際に地元の高齢者が指導することでキャンプ客と地元の高齢者の交流の場が生まれることによる地域活性化策について調査・企画・プレゼンテーションを行った。

企画・活動概要

本プロジェクトでは「鮎屋(あいや)地区」の観光資源・特産品を活用した地域活性化を提案することが主な企画内容である。そのため、鮎屋地区に新しく開設される予定であるキャンプ場の活性化および鮎屋地域の地域住民との連携および地域資源の活用方法について取り組む。

活動結果・成果・学生が成長した点・学生が身につけた能力

今回のプロジェクトで受賞することはできなかったものの、参加者では唯一の1年生だったこともあり、調査・企画・報告まで一人で取り組んでいたことは学生自身にとっても大変貴重な経験ができたと考えられる。また、先輩達が中間報告で洲本市の方々からの受けたアドバイスを活かし調査・報告内容を発展させ最終報告の完成度をあげてプレゼンテーションを行ったことを身近で参観できたことは大きな学びとなったと言える。今回のプロジェクトの参加経験は今後の他のプロジェクトの参加やゼミ活動等にも活かすことができると考えられる。



経緯・背景・目的

AI分析ツールである「AIテキストマイニング」を用いて洲本市のキャンプ場のイメージを分析した結果、多くのキャンプ場が「自然は楽しむもの」、「自然は遊ぶ場所」であるという視点を持って自然の豊かさや宿泊施設の充実さをアピールしていることがわかった。そのため、鮎屋地区のキャンプ場では他のキャンプ場と差別化を図るために利用ターゲットを「家族向け」と設定し、年齢問わず、自然で遊ぶという実体験の中から自然を守る、自然と共存するという学びも得られるキャンプ場を提案することが目的である。

指導教員および関係者の紹介

<指導教員>

人間社会学部
観光学科
准教授
金承珠(キム スンジュ)

<専門・担当科目等>
観光事業論、観光産業論、観光政策論、
観光マーケティング論など

<関係者・企業等>